

74. <維持管理の時代>

下水道事業は「これからは維持管理の時代である」と言われ始めてから、久しくなっています。世の中の流れとしては、地球温暖化対策として徹底した省エネルギー化が求められていますし、さらには創エネルギーが求められる時代となりました。下水処理施設の維持管理については、従来は「維持管理の容易さ」が求められ、自動運転や維持管理の容易な処理法の導入が求められてきました。これからはどのような方向に向かうのでしょうか。

省エネルギーのためには、省エネ型施設の導入が不可欠ですが、運転管理の工夫によっても、ある程度の省エネ化は可能です。自動運転制御については、人間が介入しない領域での定値制御であるため、安定運転に主眼を置いています。これからは、高度な知識・経験を持った技術者が、いかに処理システムを運転するかによって、省エネ効果が変わってきます。自動運転制御にも、技術者の知識・経験をフィードバックすることが求められます。

また、創エネルギーについては、下水道事業からエネルギーと言う商品を作り出す事業ですから、商品にいたる過程における運転管理が重要になります。例えば、下水汚泥固形燃料化事業では、従来処分対象であった汚泥を「商品」として石炭火力発電所などの「顧客」にお届けすることになります。従って、汚泥処理ラインを製品製造ラインと認識して、一定以上の品質を持った商品を製造すべく、運転管理する必要があります。このため、運転管理における技術者の技能が重要となります。

このような方向を考えると、ますます運転管理が重要となり、真の維持管理の時代に進んでいくと思われれます。全国の維持管理担当の皆さん、スポットライトを浴びる時代がやって来ました！

J Sでも維持管理をE a s y管理にできるよう、色々な技術開発に取り組んでいきます。

<照沼 誠>

※ J S 技術開発情報メール No. 82 号(2008/9/5)に掲載